

**平成30年総務・文教委員
合同先進地実態調査報告
兵庫県宍粟市・京都府南丹市・
京都産業大学他**

平成30年7月10日～12日
議員9名、担当課長2名、事務局2名

総務常任委員会と文教厚生常任委員会は合同で、先進地実態調査研修を行った。視察地は、1日目兵庫県宍粟市、2日目京都府南丹市、3日目京都産業大学。

宍粟市では、「子育て支援の取り組み及び図書館運営」、南丹市では、「観光の街づくり及び定住促進支援策」、京都産業大学では「熊本地震におけるボランティア活動のお礼と、最先端の図書館」などの視察研修を実施。

今後の村づくりにおける具体的な政策を先進地より学んだ。

子育て支援の取り組み

宍粟市は、本村と同じ平成17年に4町が合併して誕生した自治体であり当時は約4万6千人の人口であったが、その後7千人減少し、現在は3万9千人の人口である。人口衰退



宍粟市の多彩な取り組み

への歯止め策として、子育て支援の充実に取り組みできたとのこと。
主な取り組みが「子育て世代包括支援センター」の設置である。市内に4カ所設置され、妊娠期から子育て期の相談・支援・検診等、支援体制が構築されていた。その他、各センターでレクレーション事業を行ったり、市内に公園施設も10カ所整備済。子育てアプリの導入を検討（準備中）されておりスマートフォンを使用し子育て管理及び情報の配信などを実施する予定。市長直筆の出産御祝いカード、しそラスク応援カレンダーなど多彩な取り組みを行われていた。



美山かやぶきの里

観光の街づくり

南丹市は、平成18年に4町が合併して誕生した自治体であり、人口は3万3千人。今回は南丹市美山町「美山かやぶきの里」を見学した。約50戸の集落のうち約8割がかやぶきで作られていた。集落の中にはカフェや民泊できる家もあり、多くの観光客また最近ではインバウンド客も増えてきているとのこと。

この、「美山かやぶきの里」であるが、美しい景観を観光資源として残す為に、かやぶき屋根の保存と導入に手厚い補助金が用意されていた。

図書館運営

図書館の運営について、宍粟市及び京都産業大学を視察。

宍粟市の図書館運営は、本館が1カ所、支所が3カ所あり合計約16万冊を保管。年間利用者数は約4万人で貸出冊数は12万冊とのこと。年間予算も5400万円、その内書籍購入費用は840万、職員1名、臨時3名で対応しているとのこと。その他、移動図書館や電子図書館事業も行われていた。

京都産業大学の図書館は市町村での運営と規模の違いはあったが、最先端の技術を使用した施設であった。



京都産業大学図書館